

科目名 (英文表記)	経済学・分析手法 I (行動意思決定の基礎) (Economics and Analytical Methods I)		
科目区分	基礎科目	単位数	2 単位
担当教員名	吉地 望	ナンバリング	MBA_C_EA 5211
研究室番号		研究室電話番号	
Eメール・アドレス	kichiji@hmjc.ac.jp		
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
授業の目的： 事業が提供する製品・サービスに対する消費者・顧客ニーズの的確な把握、プロモーションなど顧客とのコミュニケーション活動の効果的な展開、組織の円滑な運営などの戦略的計画は経営管理に不可欠なものである。そうした行動計画を立案するためには、直面する問題において人々が行っている認知や判断の意思決定プロセスを理解することが重要となる。 そこで本科目は、近年の行動経済学の知見を導入して、 1. 人々の認知活動と認知的バイアスを理解できる能力、 2. 選択行動としての意思決定に影響する要因を分析する能力、 3. 人々の意思決定における心理を洞察する能力、 4. 人々の行動に対して影響力のあるコミュニケーション手段を提供する能力を養うことを目的とする。 本科目の到達目標は、人々の選択行動が個人や組織、社会に幸福をもたらすような戦略的な選択構造を事業の仕組みに組み込む能力を身につけることである。			
授業の方法： 各モジュールの前半の時限は理論等の講義、後半の時限は実践方法を議論することを基本的な構成としているが、講義においても議論を交えながら様々な適用方法を思考することとなる。			
使用教材： 授業は配付資料で行い、有用な書籍・資料等については随時紹介する。 ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー』を参考にして講義を展開するが、必ずしも購入する必要は無い。短時間で行動経済学の全体像を簡単に掴むには、真鍋昭夫『行動経済学見るだけノート』が有用である。			
成績評価の方法： 出席：0% (但し、単位取得には5モジュール以上の出席が必要) 課題：60% 平常点(授業参加)：20% 試験(最終レポート)：20% 上記のウエイトで評価する。 なお、具体的な課題は授業時に改めて指示する。 評価に不服のある場合には、不服申立書を以て教務委員長に申し出ること。			
履修上の注意事項： スキルを身につけるには学習したことを実践することが近道となる。 常日頃の自分自身や周囲の人々の判断に関して、学習内容を照らし合わせて、良い意思決定をもたらすには、どのような思考を行うことが望ましいのかを考えること。			